

～元気の出るエピソード～

認知機能の低下や数年前に患った脳出血の影響により、言葉が出づらい患者様のリハビリをさせて頂いたときの出来事です。

自身の思いを上手く伝えられないもどかしさや不安から、落ち込まれたり、暗い表情でいることが多くありました。毎日少しの時間でも話す練習やコミュニケーションを取るうち、少しずつですが、短文で話をされることが増えました。

言葉が出やすくなるように絵を見てそのものの名前を言うカードを作成し、リハビリをしているうちに笑顔も増え、「こういうのを自分でもやりたい」と話され、リハビリ以外の時間にも自主トレーニングとして使いたいとのことでした。同じものを渡すと、翌日から練習している姿を見るようになりました。声を掛けると「おお、やってるよ。難しいんだよな」と私の顔を見て笑顔で話して下さりました。難しいものは一緒に練習をしていますが、ご自身でも少し出来るようになってきたのが分かり、「いいね」「言えるようになってきた」と喜ばれている姿を見て、私も嬉しくなりました。

今後も一人ひとりに向き合い、寄り添って患者様の生活の質が向上する手助けが出来たらと思います。

作業療法士 川野優夏

診もり短歌



通院しながら俳句作り
に励む老女
老い惚けし一人暮らしの老女
俳句作りを励みにしおると
Dr.ねぎし

医療法人社団 心の絆

認知症専門病院 蓮田よつば病院

携帯からも当院のホームページにアクセスできます→



私たちは、大切な人に自信をもってすすめられる病院をつくりたい

よつば通信

3月号



発行日 令和4年3月1日

コロナ感染数が今も落ち着かない中ですが、利用者様、家族様には、日頃よりご理解ご協力くださり、ありがとうございます。デイケアわかば科長の竹内と申します。

利用者様との会話の中で、コロナがはやる前は、こんなことをした、あそこに行った、見た、あれを食べたなどの思い出が話題に上がることがあります。続けて、次はどこそこに行ってみたい、あれをやってみたい、と楽しそうにお話しされる方がいらっしゃいます。コロナ禍によって窮屈な思いをしまっていることも多く、暗い気持ちになりそうなどありますが、この状況でも明るく、先を見ているお姿に、スタッフの方が元気をいただきました。

コロナ以前のように大きなイベントを行う事や様々な季節の行事、外出などができず、日常においても制限されたレクリエーションになってしまっていますが、その中でも卓球やお雛様鑑賞、敷地内散歩など、皆様に喜んでいただける時間を、感染予防に留意しながら日々考えております。

皆様にとってデイケアわかばに行くことが、一つのお出かけとして、日々楽しみにしていただけるよう、そして利用者様にとっても、家族様にとっても安心していただける場所になるよう、スタッフ一同引き続き努力して参ります。

デイケアわかば科長 竹内 規晃

外来案内

診療科目	月	火	水	木	金	土・日
午前 認知症外来	鈴木	非常勤 医師	非常勤 医師	鈴木	鈴木or非常勤医師 (隔週)	休診
	根岸		担当医 (3/2, 3/16のみ)			
一般 内科	窪山		窪山	窪山	窪山	
午後(新患のみ)	※適宜 対応	非常勤 医師	※適宜 対応	非常勤 医師	※適宜 対応	

※内科受診に関しては、他院での受診をお願いさせていただく場合がございます。

受付時間		診療時間		面会時間
午前	午後	午前	午後	
8:45~11:30	13:00~15:00	9:00~12:00	14:00~17:00	現在 面会制限中※

※入院患者様への面会は木・土の予約制となっております。ご了承ください。スカイプを利用したのオンライン面会も予約制のためご連絡ください。

蓮田よつば病院 当院は認知症専門の病院です
〒349-0114 埼玉県蓮田市馬込2163番地
電話:048-765-7777

医療法人社団 心の絆
よつば訪問看護リハビリステーション
電話:048-796-5157

蓮田よつば病院
デイケアわかば

病院方針

- ・身体拘束は原則おこないません
- ・薬物は適正に使用します
- ・言語的抑制を最小限にします
- ・地域と共に考え貢献します

～初めて外来を受診される方～
お電話での予約が必要になります

- ・紹介状
 - ・お薬手帳をご持参ください。
- 予約時間の変更等につきましては、13時以降に外来にお電話下さい
○休診日○
土曜・日曜・祝日は休診になります

蓮田市 毎月第一土曜日
10:00~12:00

はすカフェ
蓮田よつば病院 1Fフロアにて実施



～よつばご飯～



※写真は職員食の写真となります。

献立
主食(主菜): 恵方巻
副菜: 大豆とツナのサラダ
副菜: フルーツみつ豆

栄養価
エネルギー: 542kcal
たんぱく質: 22.4g
脂質: 17.3g 炭水化物: 71.9g
塩分: 3.0g

最近では2月の節分と言えば恵方巻が有名になりました。当院でも毎年節分には恵方巻を提供しております。ただし、海苔は高齢者にとって窒息のリスクがある食材ですので、柔らかくて噛み切りやすい薄焼き卵を使って提供しております。もちろん、手作りで調理師が1本1本丁寧に巻いております。

管理栄養士 水野俊

看護部の取り組み

病棟での取り組みについて

認知症による症状は多種多様で対応が困難なこともあります。一般の病院では、事故防止のために身体拘束をすることがあります。しかし、当院では基本的に身体拘束をせずに、患者様が安全で安心した療養生活が送れるようにスタッフそれぞれが考え、様々な症状を持つ患者様への対応をしています。認知症患者様は周囲の対応や環境などの影響を強く受けるといわれており、適切なケアをすれば症状の進行を緩やかにし、軽減できるとも言われています。

適切なケアとは、その人らしさを尊重することであり、人それぞれ違います。基本的に当院ではユマニチュードの技法(同じ目線で見ると話す・触れる・立つ)を使い患者さんと接することを心がけています。そして、その人にあったケアを見つけるために、それぞれの患者さんの背景や生い立ち、職業など、知り得る限りの情報や患者様の言葉やちょっとした反応から対応を考えたりしています。

例えば、トイレをなかなか認識できない患者様や自室が覚えられない患者様に対し、その方の昔の職業に関連した写真や絵などをトイレや部屋の入り口に貼ってみる、手先をずっと動かしている患者様に編み物ができるのではないかと、かぎ針と毛糸を渡してみる、患者様がどうしたら安心して、穏やかに療養生活を送れるかを工夫しています。もちろんすべてがうまくいくわけではないですが、そこから「こうしたらいいかも」「Aさんには難しかったけれど、Bさんは得意みたい」など、スタッフ同士で意見交換するなど、新たな発見も沢山あります。

今後も、私達は患者様と良い関係を築き、安心して看護ケアを受け、少しでも早く在宅や施設で穏やかな生活ができるように、日々切磋琢磨してまいります。

2階看護師長 成田 春江

～よつば訪問看護リハビリテーション～

看護の仕事は一方的に病気の処置をするだけでなく、人生の先輩方から私自身人生勉強させていただくことが多いと日々感じています。特に利用者様、ご家族ぐるみで関わる訪問看護にはそういう機会が多くあります。

今年97歳になるM子様もその中のおひとり。心不全や脳梗塞を患って急性期病院から退院されてからのお付き合い。もう3年になります。帰ってきたばかりの頃は掴まって部屋とリビングを行き来していましたが、最近は何をするのも大変とおっしゃり、寝ていることも増えてきました。昔は小学校の先生をなさっていたそうです。お優しい先生だったそうで、今でも教え子さんとの交流もあります。娘さんがお一人で介護なさっていますが、若い時から家族には厳しくて、ありがとうなんていう人ではなかったとお聞きしました。最近のM子さんは娘さんが何をしてもありがとうと言ってくれます。娘さんからしたら信じられないことのようにですが、どんな状態でも、感謝の気持ちを伝えられるって本当にすごいことです。娘さんも毎日介護大変ですが、ありがとうって聞けるから頑張れるとおっしゃいます。

「今日は月曜日だから小坂部が来ましたよ、今年は寒くてね、でも赤い梅が咲きましたよ。」ぐっすり寝ているM子さんも聞こえたのか、ぱっちり目を開けてニッコリ。そして帰る時にはいつもありがとうと言って頂きます。。そのありがとうは娘さんを支え、私も励まされています。また来週もおふたりのところに元気を届けに行きます。

訪問看護ステーション看護師 小坂部知子

QOL推進部の取り組み

＜コロナ禍における認知症治療病棟での作業療法＞

患者様にとってはコロナ感染予防の為、面会や散歩等、生活の中での行動制限を余儀なくされています。例年と比較して実施できるレクリエーションも少なくなっていますが、可能な範囲の中でストレスフルの軽減や生活の中で人との関わりを持ち、心身機能の維持を図れるような介入・環境調整の思索、実践を心掛けています。

その中で、今回はコーヒー療法についてご紹介いたします。例年では病棟外に移動して実施していましたが、現在は病棟の「機能訓練室」を利用しています。病棟外とは異なり、外の景色を楽しむことは難しいですが、テーブルクロスをひいて喫茶店の雰囲気を出す、机に歌詞カードを置いて気軽に歌を口ずさめる等の工夫をしています。また、密を避けるために例年よりも少人数で実施しています。それにより、一人ひとりの患者様と関わる時間が増え、普段聞かれないようなお話をされたり、表情の変化を発見できることがあります。介入時は患者様、職員共にマスクを着用しているため、表情の変化をくみ取ることや言葉が聞き取りにくくなることもありますが、視線やジェスチャー等の非言語コミュニケーションを意識しながら患者様とコミュニケーションを取っています。

そうした工夫もあり、提供した際には「ありがとう」「美味しい」等前向きな発言をされたり、普段は中々座っていることが難しい方も、コーヒーを飲みながらゆっくりと雑誌を読まれている場面が見られます。下の写真のように職員と談笑したり、一緒に脳トレに取り組まれる様子もあり、実施できる活動が限られている中でも人との関わりを意識出来る活動の一つになっています。

※感染対策を徹底した中で実施しております。

QOL推進部リハビリテーション科主任 加藤 大貴



～よつば病院作業療法風景～

風船卓球



今月の予定

○誕生会 2階・3階病棟
随時おこないます

感染症対策のためはすカフェ、
認知症予防教室、クラブ活動
等を中止させて頂きます。
ご了承ください。